

「②常任委員会室のオンライン環境整備」  
会派意見

会派名	内容
自民党	<p>「開かれた県議会」という立場からは「常任委員会室のネット中継設備の拡充を進める」ことは否定するものではない。</p> <p>一方、高額な費用を掛けることは望ましくないが、ご提案の簡易な設備も線を引っかけて抜けてしまう等のトラブルが予想される。そのため、拙速に結論を出さず、比較的安価かつ安定した設備を別途検討すること。あるいは、拡充は一部の委員会室に留め、委員会開催日を分散開催すること等、検討を深めていくことが必要ではないかと考える。</p>
維新の会	<p>簡易な設備を基本として、全常任委員会のネット中継（録画配信も可）を目指して検討する。</p>
公明党	<p>常任委員会のネット中継を先進的に導入したが、全常任委員会の中継が行われていないので、簡易な設備で実施すべきと考える。</p> <p>また、簡易な方法であれば、地域開催時の中継なども検討できるのではないかと考える。</p>
ひょうご 県民連合	<p>費用面として、現行並みの設備は必要ない。</p> <p>実施するなら簡易な設備による方法となるが、今後の議会棟のあり方も不透明なため、それらの議論も踏まえながら検討すべきと考える。</p> <p>また、実施する場合は、再生回数などによる費用対効果も示すべきである。</p>
共産党	<p>党県議団として、かねてより全常任委員会のネット中継を行うことを主張してきた。県民の知る権利の保障、議会からの発信力強化という観点から、簡易な設備でも、全常任委員会でネット中継を行うべきだと考える。</p>

「委員会におけるお茶の提供について」  
会派意見

会派名	内容
自民党	<p>傍聴席では秩序やセキュリティ面からも飲食を禁止しているところ、水または日本文化である日本茶（緑茶）は、委員の発言時に喉を潤す目的で例外的に提供しているものである。なお、コーヒーやジュース等の嗜好品は傍聴席との均衡において県民理解の点で不適切である。</p> <p>マイボトルは中身が確認できないが、（セキュリティ面で問題はないのか）、嗜好品がどうかを確認できないこと、ペットボトルの販売に制限がないなかマイボトルを推奨することは、慎重に検討する必要がある。</p> <p>また、マイボトル以外の持参についても、ラベルの企業広告・嗜好品の排除などを徹底する必要がある、体調管理の課題もある。</p> <p>よって、これまで通りの運用が望ましい（水または日本茶を統一的に用意すること。マイボトルの可否は委員長判断に委ねること）</p>
維新の会	
公明党	<p>委員会におけるお茶の提供は廃止し、各自でマイボトルの持ち込みも含めて用意すればいいと考える。</p>
ひょうご 県民連合	<p>提案に賛同するが、マイボトルに限定せず、議員の自主判断に委ねることと構わない。</p>
共産党	

「委員会、本会議における携帯電話の持ち込み」  
会派意見

会派名	内容
自民党	議場への私物の持ち込みは制限されているところであり、安易に拡大するべきではない。
維新の会	
公明党	委員会、本会議における携帯電話の取扱はこれまで通りで良いが、公館でもタブレット端末で調べたいことを検索出来るようWi-Fi環境を整えるべきではないか。
ひょうご 県民連合	提案に賛同する。着信音やアラーム音などの管理を徹底すれば、特段問題ないと思う。
共産党	<p>大阪、千葉、神奈川などいくつかの府県を調べてみたが、携帯電話の持ち込みを可とはしていなかった。緊急時のリスクヘッジという点では、議会中であれば、議会事務局などから緊急連絡を受け取れるようにするなど、携帯持ち込みでなくても対応可能であると思う。そのほか、調べ物などする際には、現状、タブレットを持ち込めるので、それで十分可能である。また、本会議でも2時間ほどの議事後は、休憩も確保されており、そのときに携帯を確認することなどできる。いまの段階で、とくに携帯が議場に必要であるという理由は、見当たらない。</p> <p>他県では、議場に携帯を持ち込み、操作しているところを県民が見ると、『議会に集中しているのか』などの批判が寄せられ、携帯の持ち込みを不可にかえたところもあるようだ。</p> <p>こういう状況を鑑みても、現段階で、携帯電話の持ち込みを可とする必要はない。</p>